

編 集 後 記

11月16日、宇宙航空研究開発機構は、7年の歳月をかけて60億kmの宇宙の旅を終えてことし6月に地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」のカプセルから見つかった微粒子約1500個の大半を、地球の岩石と違う小惑星「イトカワ」由来のものと断定した。小惑星の物質が得られたのは世界で初めてであり、「はやぶさ」は最大の任務を果たした。

このニュースは、今の閉塞感たゞよう日本において、久しぶりに明るい世界に誇れる出来事である。あらためて日本の技術力の素晴らしさにほっとする。今後の分析により、太陽系の起源に迫る成果が期待される。

また、7月末から8月にかけて、帰還した「はやぶさ」のカプセルの一部が展示されたニュースの映像で、見学に訪れたこどもたちの目の輝きに驚かされた。猛暑のなか、「宇宙のナゾを見つけに行こう！」と列をなすこどもたちに、日本の未来を期待する。これまでにどれくらいのお金が使われたのだろうと考えてしまう大人と比べ、こどもたちの笑顔が素晴らしかった。同時に、教育に携わる者として、このこどもたちが目の輝きをいつまでも失うことがないように祈りたい。そして、こどもたちが「今よりもっと良くなろう」とするのを、どう支援すべきか責任は重大である。

さて、第39号「星稜論苑」を発刊するにあたっては、当初、執筆申込者が少なく申込期間を延長した結果、こうして9編の投稿があり、例年どおり第39号を発刊することができました。素晴らしい研究成果を発表していただきました先生方に感謝いたします。

本学は、平成24年4月1日から、星稜女子短期大学から金沢星稜大学女子短期大学部と名称変更されます。そして、平成24年10月1日には、場所も御所町西1番地から金沢星稜大学敷地内の御所町丑10番地1に移ります。今は、長い間、この地で多くの学生たちとともに過ごしたことを思い出し、寂しさとこれからの不安を感じています。来年、第40号「星稜論苑」を発刊することができるだろうか？これが最後になるかも。

平成22年12月 乙丸 由紀